

令和2年度学校評価報告書

学校評価の目的

学校評価は、東濃看護専門学校が、教育活動、教育環境、学校経営の課題を発見し、それを解決することを目的とし、学校運営の改善と充実を図るために行う。

学校評価の種類

学校評価は、自己評価、自己点検、個別行事総括により構成する。自己評価は、学校の教育活動、教育環境、学校経営全般に亘って評価し、自己評価表(様式第1号)を用いて評価する。また、評価項目の達成度に加えて評価項目の適否も評価する。

<自己評価>

1 評価の方法

(1) 評価者

学校長 副学校長兼事務長、教務主任 実習調整者 専任教員 6人、事務職員 2人の計 12名。評価項目ごとに、その項目に精通した教職員・精通すべき教職員を評価者とした。

(2) 評価時期

令和3年2月3日～令和3年2月24日

(3) 評価表

自己評価表(様式第1号)を用いて評価した。

(4) 評点

1) 評価項目の達成状況

評価項目の達成状況を「達成」「取り組み中」「不十分」の3段階に評価した。(※課題発見のための自己評価であり、点数化はしない)

2) 評価項目の適否

・評価項目が適切であるかを「適」:適切な評価項目・「否」:不適切・不要・評価不能・将来に亘って達成が困難な評価項目の2段階に評価した。

2 評価の結果

1) 評価項目の達成状況の結果(表1参照)

表1: 学校評価自己評価表(評価項目の達成状況)

項目	延評価者数	延評価者数の内訳		評価件数分布(構成比)			無回答の割合
		評価件数	無回答	達成	取組中	不十分	
1 教育理念・目的・目標	48	48		92%	8%		
2 カリキュラム	80	80		96%	3%	1%	
3 授業課程	88	88		81%	18%	1%	
4 実習指導體制	120	120		93%	7%		
5 学校組織・運営	207	207		82%	16%	2%	
6 教育環境	104	102		87%	9%	2%	2%
7 学修・進路	40	40		92%	8%		
8 学生生活への支援	60	60		88%	9%	3%	
9 地域との連携	24	24		33%	38%	29%	
合計	771	769		89%	13%	6%	2%

(1) 79 評価項目の達成状況

- ・全評価者が達成と評価した項目 31 項目 (39.2%)
- ・評価者の 1/2 以上が達成と評価した項目 78 項目 (98.9%)
- ・全評価者が取組中と評価した項目 44 項目 (55.7%)
- ・評価者の 1/2 以上が取組中と評価した項目 2 項目 (2.5%)
- ・1人以上の評価者が不十分と評価した項目数 11 項目 (13.9%)

2) 評価項目の適否の結果 (表 2 参照)

表2：学校評価自己評価表 (評価項目の適否)

	延評価者数	延評価者数の内訳		評価件数分布 (構成比)		無回答の割合
		評価件数	無回答	適	否	
1 教育理念・目的・目標	48	48		100%		
2 カリキュラム	80	80		100%		
3 授業課程	88	88		99%	1%	
4 実習指導体制	120	120		97%	3%	
5 学校組織・運営	207	207		100%		
6 教育環境	104	104		100%		
7 学修・進路	40	40		100%		
8 学生生活への支援	60	60		98%	2%	
9 地域との連携	24	24		92%	8%	
合計	771	771		98%	2%	

(1) 79 評価項目の適否

- ・全評価者が適と評価した項目 71 項目 (89.9%)
- ・1人の評価者が否と評価した項目 8 項目 (10.1%)

3) コメント

- ・コメント数 43 件
- ・コメントが記載された項目 26 項目
- ・不十分又は否の評価に付されたコメント数 11 件

表 3 : 大項目別達成評価の主なコメント

大項目	評価	コメント
1 教育理念・目的・目標	取組中	ディプロマポリシーがないことから学生にとって卒業到達目標が明確でない。
2 カリキュラム	達成	新型コロナウイルスに伴い授業・行事計画の大幅な変更が教職員への負担増になったが教員研修・学校祭など行事を行うことができた。
	取組中	2名の新任教員が科目を担当し授業・演習に取り組んでいる。
	不十分	新型コロナウイルスにより行事の多くが中止となり学校の特色を生かした行事が設定できなかった。
3 授業課程	達成	授業内容は他の授業との整合性を考え効果的な学習を目指し授業を入れ替え実施した。
	取組中	新型コロナウイルスにより休校で多々変更を要したが、年内に全てやりきることができた。学生からの授業評価アンケートの回収率が低く意見が少ないため授業改善に活かし切れていない。授業準備などコロナ対応に時間を要した。
	不十分	コロナによって実習も含め授業計画通りタイムリーにできない場合があった。
4 実習指導体制	達成	コロナを見据えて実習施設を開拓した。母性看護学実習は新カリキュラム対応に向け開拓努力をした。
	取組中	臨地実習指導計画は施設で立案していないところがある。学校が計画したものを活用している。指導のばらつきが施設間にある。
5 学校組織・運営	達成	閉校に向けての周知は、懇談会、ホームページ、関連施設訪問などにて情報提供ができた。関連施設は愛知県、中濃地域など在校生・卒業生の就業先への周知を図った。コロナ禍、時間外労働などが多くなったと感じる。
	取組中	職員間の連携はできているものの見えにくい部分がある。3市で構成する広域組合が設立母体のため、意思決定に時間を要する。
	不十分	研修を企画していたが新型コロナウイルスで未実施。環境は整っているが特に今年度はコロナによる突発的なこともあり余裕がなく、業務状況によってリフレッシュのための年休取得は難しい状況だった。
6 教育環境	取組中	演習模型（モデル）などは学校（教員）の使用許可のもとで活用している。
7 学修・進路	達成	合同説明会がコロナで中止、代わりに特別説明会を企画した。
	取組中	個々の学生に応じた方法で取り組み中。
8 学生生活への支援	取組中	学生が自由に学習・交流する場所の提供はコロナで一部制限した。
	不十分	課外活動をしている学生の把握ができていない。ボランティアの内容や見直しまで至っておらず、学生が主体的に取り組めるよう活動内容の見直しや改善をしていく必要がある。
9 地域との連携	取組中	十分とは言えないが取り組んでいる。今年度はコロナ禍において地域社会との関わりが少なく積極的な貢献に至らず。
	不十分	コロナ禍 地域での活動はできなかった。授業や年間スケジュールが決まっている中で、さらに学習教育活動に何か取り入れ実行していくことは困難である。取り入れられるものがあるのか見直しが必要。

表 4：評価項目の否としたコメントと改善策

大項目	項目の 適否	コメント	改善策
4 実習指導体制	否	全体的には目標は達成できているが指導者によっては大まかなアドバイスな場合もある。個々の評価はしづらい。	施設指導体制は実習毎に評価しているが各指導者評価は施設ごとに実施している。そのため指導者個々の評価項目の適・否は難しいと考えられる。実習はカリキュラムの1/3を占め実習指導体制の評価は必要であるため評価項目を見直し施設が実施している指導者評価の共有を図る。
6 教育環境	否	看護演習モデルは学校側の指示のもとで活用している。	施設の使用などは使用許可願など手続きを課している。「自由に活用」の表現を見直す。
9 地域との連携	否	学生は授業や年間スケジュールが決まっている中でさらに地域活動を実行していくことは難しい。教育活動に何か取り入れられるものがあるのか不明である。	地域との連携は令和4年度看護教育のカリキュラム改正で重視されている。よって、教育活動とし地域との連携は評価していく必要はある。新型コロナウイルス感染症による活動制限が続くことを視野に学校が地域にできることを考え教育活動に取り入れていく。

3 考察

1) 項目 1「教育理念・目的・目標」

教育理念・目的・目標は本校の特徴を示し指針となっていると評価できる。次年度も教育活動の継続と併せ、教育目標の到達評価に向け卒業時の到達目標を学生ニーズに応えられるよう見直し看護師の育成に努める。

(2) 項目 2「カリキュラム」

カリキュラムの編成は教育目標に沿った科目設定が行えている。しかし、新型コロナウイルス感染症に伴う2か月の休校措置により、午前授業の実施、学校行事の中止や規模縮小により学校の特色を生かした授業内容、行事の企画・運営が制限された。次年度は、コロナ禍を見据えたカリキュラム編成と学校行事の検討を十分に行っていく。

(3) 項目 3「授業課程」

授業計画・授業方法・授業評価はおおむね評価できるが、その中で授業終了後の指導案の見直しが低かった。新型コロナウイルス感染症に伴う授業計画の変更が何度もあり、その結果、教員の授業が10月から3月の後期に集中し見直しが十分行えなかったと考える。現在、対面授業をはじめオンライン授業を行いながら計画通りの教育課程の遂行に向け取り組んでいる。

(4) 項目「実習指導体制」

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨地実習施設の確保と履修時間の確保が非常に困難な状況であったが各施設の協力によりすべての実習の履修ができた。達成評価が低かった項目には実習指導者の役割があがった。今後、実習指導者と教員の協働体制が図れるよう指導者との連携を強化していく。

(5) 項目 5「学校組織・運営」

運営に関しては令和6年度にて学校閉鎖の方針が明確になり、学生・保護者、学校関係機関への周知を行った。次年度も閉鎖後の学生の学修機会の継続支援などの課題に順次取り組んでいく。

(6) 項目 6「教育環境」

技術演習用モデルなどの学生使用は、教員へ使用の申し出を指示しているため自由に活用でき

る環境下ではない。学生からの使用申し出においては、各教員が対応し学生からの不満の声はないが、学びの場となる施設の教育環境の整備は今後も努めていく。

(7) 項目7「学修・進路」

学生状況に応じた国家試験対策、卒業後の進路選択の支援体制、学習困難者に対する支援体制は整っていると評価できる。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い就業の制限による収入減となった学生には施設設備協力金の納期の延長、東濃西部看護師修学資金制度の活用など学生のニーズに応じた経済支援を実施した。次年度も3年間の学校生活を送れるよう学習面と経済面の支援を含む学修支援を継続する。

(8) 項目8「学生生活への支援」

学生・クラスの支援体制、学生の健康管理体制、学生相談窓口の体制は評価できる。学生が自由に学習・交流する場、自主活動支援についての評価は低かった。新型コロナウイルス感染防止に伴う行動制限が考えられる。コロナ社会との共生に向け感染予防行動を遵守しながら学生の交流の場と機会の提供ができるよう配慮する。

(9) 項目9「地域との連携」

教育活動を通して地域社会への貢献は活動の自粛があったことも加わり達成度は低かった。今後、学校としてできることを模索し地域住民に寄与できる活動を考え取り組み地域との連携を図っていく。

4 評価項目以外の課題

評価表の評価項目以外に、解決すべき課題、検討すべき課題として、次の項目が提案された。

1) 実習指導者と教員との協働体制については指導者個々の評価をする必要がある。

→実習指導者会議の場などを通し、教員と指導者の連携を図り教育活動の振り返りを通し課題に向け検討していく。

2) 学生寮が3部屋しかない。空きがあれば学生用として借り学生の負担を軽くしてあげたい。

→現在、土岐市立総合病院女子寮の3部屋を学生寮として提供を受けている。学生からのニーズも高いことから病院へ協力依頼を試みる。

3) 非常灯、非常誘導灯がない→停電時に学生を安全に避難させられないため心配。

→非常誘導灯は令和3年度に設置予定。

〈個別行事総括〉

1 評価の方法

- 1) 評価者 個別行事の担当者
- 2) 評価時期 主要学校行事が完了する都度
- 3) 総括の内容 行事の概要・評価の外、反省、問題点、要改善点、課題等を記載している。
- 4) 総括の報告 担当者が関係会議・委員会に報告した。

2 総括を作成した個別行事

行事名	期日	報告（会議の名称）
1. 入学オリエンテーション	令和2年5月25日～5月28日	7月職員会議
2. オープンキャンパス	令和2年8月18日～9月24日のうち9日間開催	11月教務会議 12月職員会議
3. 教育研修	令和2年9月14日	11月教務会議 12月職員会議
4. 防災訓練	令和2年10月9日	11月職員会議
5. 就職説明会関連	令和2年11月11日	12月職員会議
6. 推薦・一般入学試験	推薦入試 令和2年11月18日 一般入試（一次） 令和3年1月13日 二次・一次試験追試験 令和3年3月2日	第5回運営委員会 4月職員会議

〈課題への取り組み〉

自己評価の評点が不十分である評価項目、自己点検の評点が否である点検項目、個別行事総括で問題点・課題とした事項は、学校評価委員会で重要な課題とそれ以外の課題に区分し組織的に処理した。その結果、課題シートに起票し審議すべきものはなかったが、新型コロナウイルス感染症対策として活動の中止、制限を課した教科外活動においては、開催の時期、活動内容を精選しながら学生の学びの場の確保を継続していくよう努める。また、個別行事の総括結果は、令和3年度の行事企画に反映させ取り組むこととした。